

## ◆団体基本情報

No.	12	種別	一般財団法人	団体名	一般財団法人みやぎ産業交流センター		
所在地	〒983-0001 仙台市宮城野区港三丁目1番7号						
電話番号	022-254-7111		FAX番号	022-254-7110		所管 部局	経済局 企業立地課
団体ホームページ	<a href="https://www.vumemesse.or.jp">https://www.vumemesse.or.jp</a>						
代表者職氏名	理事長 千葉 隆政			設立年月日	平成6年8月1日		
資本金・基本財産	1,779,000 千円		市の出捐額(割合)	450,000 千円		( 25.3 %)	
設立目的	国際見本市その他の見本市, 展示会, 会議, イベント, 大会等の開催及び支援等に関する事業を行うことにより, 宮城県の産業振興, 地域経済の発展に寄与することを目的とする						
事業概要	・見本市, 展示会, 会議, イベント等の企画, 誘致, 開催及び協力 ・みやぎ産業交流センターの指定管理事業 ・その他						
評価対象決算期	令和4年4月1日～令和5年3月31日						

## ◆人員等の状況

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
①常勤役員数	2 人	2 人	2 人
うち市派遣	0 人	0 人	0 人
市退職者	0 人	0 人	0 人
②常勤役員平均年齢	63.5 歳	63.0 歳	61.5 歳
③常勤役員平均年間報酬	7,179 千円	7,105 千円	6,451 千円
④職員数	9 人	9 人	9 人
うち市派遣	0 人	0 人	0 人
市退職者	0 人	0 人	0 人
⑤職員平均年齢	47.2 歳	44.7 歳	45.3 歳
⑥職員平均年間給与	5,540 千円	5,661 千円	5,983 千円

## ◆主要財務データ

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
①当期経常増減額	47,094 千円	△ 16,093 千円	△ 72,020 千円
②当期経常外増減額	0 千円	0 千円	0 千円
③当期一般正味財産増減額	46,982 千円	△ 16,245 千円	△ 72,092 千円
④一般正味財産期末残高	590,192 千円	573,947 千円	501,855 千円
⑤指定正味財産期末残高	1,779,000 千円	1,779,000 千円	1,779,000 千円
⑥正味財産期末残高	2,369,192 千円	2,352,947 千円	2,280,855 千円
⑦長期借入金残高	0 千円	0 千円	0 千円

## ◆市の財政的関与

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
①市からの補助金	0 千円	0 千円	0 千円
②市からの委託料(指定管理料含む)	0 千円	0 千円	0 千円
③市に対する収入依存度	0.00 %	0.00 %	0.00 %
④市からの借入金	0 千円	0 千円	0 千円
⑤市からの債務保証に係る債務残高	0 千円	0 千円	0 千円
⑥市からの損失補償に係る債務残高	0 千円	0 千円	0 千円

◆主要事業一覧及び概要

事業名	事業概要	令和4年度事業費
施設運営管理事業	みやぎ産業交流センターの指定管理事業	349,892 千円
展示会開催事業	展示会の主催・共催・協賛等	12,684 千円
展示会出展支援事業	展示会への出展に係る助成金の交付	1,037 千円
展示会活用促進事業	展示会に関する講演会・セミナー等の開催	725 千円

◆経営評価の総括

項目	外郭団体による総括	所管局によるコメント
1. 公益的使命・市が期待する役割への対応	新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、イベント等開催件数や稼働率は前年度に比べ持ち直してきたものの、低調な稼働状況であった。平時の社会経済活動への回復に向け社会全体で取組が進められており、今後も展示会等の開催・出展支援等の事業に取り組んでいくことにより、産業振興や交流人口の増加に寄与していく。	新型コロナウイルス感染症によるイベント等の開催制限の撤廃に伴い、予約・実施が徐々に感染拡大前の状況に戻りつつある。関連団体との連携を図り、収益性の高い事業により一層注力いただきたい。
2. 業務・組織管理	これまでの管理運営の経験や成果を事業に着実に反映させるとともに、新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、仙台港周辺地域賑わい創出コンソーシアム各社の協力を得ながら施設の利用促進を図った。	これまでの管理運営の経験を基に、より一層の効率的な組織運営をしていただくとともに、コンソーシアム各社の協力を得て施設の利用促進を図っていただきたい。
3. 財務状況	新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響が大きく、年間の予約件数・開催件数は前年度に比べ増加したものの、コロナ禍前の稼働状況までの回復には至らず、前年度に続き当期経常増減額が赤字となり、大変厳しい運営状況となった。	予約・開催件数は徐々に回復しており、潜在的な需要は期待できる。まずは単年度会計の黒字化を目指して、展示場連絡協議会との連携も強化し積極的な誘致活動を行っていただきたい。
4. 今後の方向性及び課題	引き続き財団設立の趣旨・目的の実現に向けて、事業の充実と堅実な財政運営に努め、公益目的支援事業を確実に実施していく。併せて、安定した運営への回復を図るべく、本館・西館の一体的管理運営により、収益性や効率性をより一層意識した運営に注力していく。	収益性の高い展示会の開催、支援事業に注力頂くと共に、効率的な事業運営にも尽力頂き、コロナ前同等の単年度黒字会計を目指していただきたい。